

授業科目名	<b>教職論</b>				
担当教員名	大槻雅俊				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	通常の講義形式で行うが、適宜グループワークなど、実践的なワークを取り入れる予定である。映像資料を用いることもある。授業計画はあくまでも参加者や状況が確定する以前の計画にすぎないので、参加者 開放科目の指示：「不可」				

### 授業概要

本講義では、教師の専門性、教師を取り巻く社会環境、文化等について考察していきます。特に教職の特質である「人を育てる」ことについて、教師の人間性が大きく関わっていることを理解していきます。また、学習指導をはじめ職務全般について、教育制度や教育法規とも関連づけながら理解を深めていきます。授業の中では教育の動向、いじめ問題、保護者対応など今日的な教育課題を具体的に取上げ、教職という視点からあらためて現代教育に携わる教師とは何かについて考えを深めていきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教師としての基礎的資質に関する知識	児童・生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
汎用的な力		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。
1 . DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「S」とします。レポートの提出について指示された期限を厳守すること。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
5回の小レポート	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から独自のルーブリックに基づいて各観点ごとに3段階で評価をします。
50%	
15回目の授業のなかで小テスト及び小論文	： 教師として基礎的資質に関して独自のルーブリックに基づいて評価をします。知識理解と表現力の観点から3段階で評価をします。
30%	
受講状況	： 授業中の学習意欲、受講態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）をチェックリストを活用し、独自のルーブリックに基づいて総合的に評価をします。
20%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣  
山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』ミネルヴァ書房  
ほか、適宜授業で紹介いたします。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 3限

場所： 教育第4研

備考・注意事項： オフィスアワーは水曜日、3限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

### 授業計画

第1回

**オリエンテーションと教師志望**

教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べることができるようにする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。		
第2回	<b>学校教育の現状と課題</b> 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育の諸問題のうち学力について調べてまとめる。	4時間
第3回	<b>教職についての社会の見方</b> 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。	4時間
第4回	<b>求められる教員の資質能力(1)－受容と寛容－</b> 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受け入れる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。	教員の心身の健康と児童・生徒の関係をまとめる。	4時間
第5回	<b>求められる教員の資質能力(2)－教員の専門性と実践力－</b> 教員授業が勝負であると言われる、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。	教師の授業力を高めるための取り組みをまとめる。	4時間
第6回	<b>教職員の種類と資格</b> 教員の免許や保育士資格について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第7回	<b>教員の身分保障</b> 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第8回	<b>教員研修と向上心</b> 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種類と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第9回	<b>教員の力量と学習指導</b> 小学校の全科、中学校の専門教科（家庭科、国語科）など教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べるようにする。	4時間
第10回	<b>教員の力量と校務</b> 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適正について理解する。	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめる。	4時間
第11回	<b>校務分掌とその実際</b> 校務分掌の内容を学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの校務の実際の様子と課題について理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間
第12回	<b>学校外の職務と教員の関わり</b> 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力の重要性和教員のかかわりについて理解する。	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第13回	<b>学校、家庭、地域の連携と教員の関わり</b> 地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間
第14回	<b>教員をめぐる事件・事故</b> 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第15回	<b>まとめと講義全体の振り返り</b> 教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒を深い愛情と理解にもとづく熱意のある児童・生徒の指導にあたる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで自己の課題を捉えることができる。	自身が描く教師像と努力すべきことがらをまとめる。	4時間

授業科目名	<b>教育学</b>				
担当教員名	榎原志保				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

学校教育に携わる専門職として求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項について学ぶ。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的の理解に重点を置き、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における中等教育学校の機能や使命、中学校教諭、栄養教諭の役割や使命について考えを深めることをめざす。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育に関する歴史及び思想の理解	主要な教育思想家の主張を取り上げながら、教育に関する自分の考えを述べるができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育理念ならびに教育制度に関する理解	教育の理念・目的・目標にかかわる法的規定やそれに基づく教育制度の基本的なしくみを理解し、それを踏まえて、中学校教諭、栄養教諭の担う職務の意義について、考えを述べるができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表をとおして、分かりやすく正確に伝えることができる。
2．DP4. 課題発見		現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各回授業内での小レポート	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、重大な誤りや不足があれば1点とする。これを15回分実施。
30%	
授業外学修課題	： 授業外学修課題への取り組みを、理解度や課題意識を重視して評価する。
15%	
授業内小テスト	： 学期中に3回小テストを行い、語句や基本的事項の理解度を確認する。
30%	
学修のまとめレポート	： 学修成果のまとめとして、授業内容を踏まえての自己の教育理解について論述する。1. 授業内容の正確な理解、2. 論述の説得力の観点から評価する。
25%	

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新井郁男・牧 昌見 編著	・ 教育学基礎資料 第6版	・ 樹村房	・ 2010年

### 参考文献等

原聡介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社  
 佐藤学 編 『教育本44』 平凡社  
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会  
 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣

その他、各回授業のなかで適宜紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限（10：40～12：10）

場所： 教育第4研究室

備考・注意事項： 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。  
Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

## 授業計画

		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<b>オリエンテーション — 「教育学」を学ぶ意義を考える —</b>  教職課程において、なぜ「教育学」を学ぶ必要があるのかを、①「教育」に対する理解の交換（グループワーク）、②「教育学」がめざすことの学習を通して理解します。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：教育職員免許法、中学校教諭、栄養教諭、教育課程） 4時間
第2回	<b>「教育」の意味</b>  「教育とは」という問いから、各人のもつ教育観を振り返り、「教育」の意味の多様性と共通性について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：教、育、字源、プラトン、カント、ルソー、デューイ） 4時間
第3回	<b>「教育」の機能と歴史性</b>  「教育」の意味が時代や社会の移り変わりとともに変遷してきたことを学び、個人・社会と教育との関係に注目することを通して、「教育」の機能と歴史性について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：養育、訓練、教授、陶冶、教育、社会化、個性化） 4時間
第4回	<b>「教育」と児童福祉</b>  現代社会における教育の理念と目的について、児童福祉との関連にも目を向け、考えを深める。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：教育基本法、児童福祉法、教育の機能、格差） 4時間
第5回	<b>現代の子ども観と教育観</b>  教育観の根底にある子ども観の問題に目を向け、現代の子ども観の内容と、その根底にある思想について考える。教育観と子ども観との結びつきや現代的な社会状況のなかでの子ども観について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：児童憲章、子どもの権利条約、子どもの最善の利益、コルチャック） 4時間
第6回	<b>世界の教育思想の歴史（1）古代～近世</b>  子ども観と結びついた教育思想のタイプについて学ぶ。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：ソクラテス、プラトン、コメニウス、注入主義と開発主義） 4時間
第7回	<b>世界の教育思想の歴史（2）近代～現代</b>  今日の学校教育とかわりの深い主要な教育思想を学ぶ。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、ブルーナー、系統主義と経験主義） 4時間
第8回	<b>世界の教育思想の歴史（3）現代における様々な教育思想</b>  人間形成にかかわる現代の教育思想を学ぶ。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：芸術教育、労作教育、ケアリング） 4時間
第9回	<b>日本の教育思想史</b>  日本の主要な教育思想を学ぶ。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：空海、最澄、金沢文庫、足利学校、藩校、私塾、寺子屋、郷学、貝原益軒、中江藤樹） 4時間
第10回	<b>日本の教育制度と各学校の目的・目標（1）明治～大正</b>  日本の学校教育制度の成立について学び、社会の形成にかかわる教育制度の意義について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：学制、教育令、学校令、教育勅語、大正自由教育運動） 4時間
第11回	<b>日本の教育制度と各学校の目的・目標（2）昭和</b>  戦後日本の教育理念とその制度を学び、戦後の社会変容のなかで学校教育が担ってきた役割について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：日本国憲法、教育基本法、学校教育法、民主主義と教育） 4時間
第12回	<b>日本の教育制度と各学校の目的・目標（3）平成</b>  現代日本の学校教育制度の現状と各学校の目的・目標を理解し、今日の社会状況のなかで「学校」に求められている役割を考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：改正教育基本法、改正学校教育法、小中一貫、中等教育学校） 4時間
第13回	<b>教育行政</b>  教育行政や学校経営の組織、最近の教育改革の動向を学ぶ。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：文部科学省、中央教育審議会、教育再生会議、教育委員会） 4時間
第14回	<b>生涯学習</b>  生涯学習の理念と法律を学び、生涯学習社会における中学校教育の意義について考える。	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：ラングラン、改正教育基本法第3条、生涯学習振興法） 4時間
第15回	<b>まとめ — 「教育学」を通しての学びを振り返る —</b>	「本日のトピック」についてのレポート作成（キーワード：教育学、歴史、思想、制度、理念、中学校教諭、栄養教諭） 4時間

「教育学」授業を通しての学びを振り返り、総括する。

⋮

⋮

---

授業科目名	<b>教育心理学</b>				
担当教員名	鎌田次郎・渋谷郁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	2人の教員がオムニバス形式で授業を行います。どちらの教員についても、授業の形態は、配布する資料を使用した講義です。ですが、単に資料を読んでいくのではなく、授業中の質疑などを交えて授業を構成していき				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

教育活動を行うためには、「教える内容」についての知識があれば十分というわけではありません。まずは、「教える」とは何か、「学ぶ」とは何かという根本的な問題を考えてみるのが大切です。本授業では、「教える-学ぶ」という教育の問題を心理学的に研究し、教育の実践活動に対する科学的な根拠と指針を理解することを目的としています。より具体的には、身体、知覚、感情、言葉、学習、集団、人間関係などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える教育実践について考察します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育の実践活動に対する科学的な根拠と指針の理解	「教える-学ぶ」という教育の問題を心理学的にとらえる
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		学んだ知識をもとに、子どもたちの発達を支える教育実践を計画・立案する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	: 基本的事項が理解できる。 40%
小テスト	: 心理学の理論を踏まえて子どもを理解できる。 30%
レポート	: 学んだことを教育実践へ応用できる。 30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「教職のための心理学」 藤澤文 ナカニシヤ出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 渋谷（水曜日3限）、鎌田（水曜2限）  
場所： 中央館4階第5研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>教育心理学とは：生涯発達の視点から</b> （担当者：渋谷） 教育心理学の諸領域について学ぶ。 生涯発達の視点から発達各時期（特に幼児期・児童期）の意義を理解する。	心理学に関わる領域について自分なりの考えをまとめる 4時間
第2回	<b>発達の基礎理論：社会心理的発達</b> （担当者：鎌田） エリクソンの理論をもとに発達の時期と課題について知る。 青年期の発達課題とその獲得の困難さについて理解する。	自らの人生を振り返り、発達課題の獲得について考察する 4時間
第3回	<b>社会性の発達と学級集団</b> （担当者：鎌田）	自らのこれまでの学校生活を振り返り、集団生活の意義について考えをまとめる 4時間

	社会の一員として生きることを知る。 仲間関係の発達と学級集団の意義と役割について理解する。		
第4回	<b>ことばの機能と発達</b> （担当者：鎌田） 一次的言語と二次的言語について理解する。 内言と外言を中心にことばの機能を理解する。	ことばを使わないと困難になってしまうことを自分なりに考える	4時間
第5回	<b>道徳性の発達</b> （担当者：鎌田） いいこと悪いことを理解する心の発達を知る。 道徳性を養う教育的関わりを知る。	自らの倫理観について考察する	4時間
第6回	<b>教育活動の測定と評価</b> （担当者：鎌田） 教育評価の目的と評価方法を理解する。 偏差値と標準偏差について理解する。	これまで自分が受けてきた評価について振り返ってまとめる	4時間
第7回	<b>行動主義の学習</b> （担当者：鎌田） 学習の基礎として条件づけを理解する。 動機づけのメカニズムを理解し、支援法を知る。	自分を動機づける具体的方法を考える	4時間
第8回	<b>認知主義の学習</b> （担当者：鎌田） ピアジェの認知発達理論を理解する。 能動的な学習観にもとづく実践を知る。	同化と調節の具体例を考える	4時間
第9回	<b>活動主義の学習</b> （担当者：鎌田） ヴィゴツキーの活動主義の発達教育論を理解する。 活動主義の学習観にもとづく実践を知る。	さまざまな学習方法の長所と短所をまとめる	4時間
第10回	<b>今日の学習研究（1）</b> （担当者：鎌田） 「心の理論」の発達研究から、模倣による学習を理解する。 模倣から創造性などの生成的学習への可能性を考える。	模倣によって学習してきたことをまとめる	4時間
第11回	<b>今日の学習研究（2）</b> （担当者：鎌田） 協同学習に関する人間の心理的基盤を理解する。 協同学習による文化継承と文化生成の可能性を考える。	協同学習によって学習してきたことをまとめる	4時間
第12回	<b>学校への不適応</b> （担当者：渋谷） 不登校やいじめなどの学校で起こりうる問題について理解する。 問題解決のためのさまざまな対応例を知る。	新聞などで教育問題に関わる記事を探してくる	4時間
第13回	<b>障害と特別支援教育（1）：障害をどう理解するか</b> （担当者：渋谷） 発達障害を含めたさまざまな障害とその定義について理解する。 特別支援教育について理解する。	自分の経験、新聞記事などで障害についての理解を深める	4時間
第14回	<b>発達障害と特別支援教育（2）：発達障害の特性</b> （担当者：渋谷） 自閉スペクトラム症の「コミュニケーションの難しさ」「行動・興味の狭さ」の生じる背景を理解する。 注意欠如・多動症や学習症の主特性とそのメカニズムを理解する。	本や漫画などの文献で障害についての理解を深める	4時間
第15回	<b>保護者対応と教師のメンタルヘルス</b> （担当者：渋谷） 現代社会における子育ての諸問題を理解し、保護者の気持ちに寄り添う対応を考える。 子どもや保護者、同僚と良い関係を築いていけるよう、教師のメンタルヘルスのあり方を考える。	カウンセリングスキルを日常生活の中で実際に使ってみる	4時間

授業科目名	<b>国語科教育法</b>				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	授業の半分程度を講義、残り半分を講義に基づく演習の時間とする。演習の時間は模擬授業の発表を取り入れる。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、まず、学習指導案の考え方や作成の準備・プロセス・注意について学ぶ。次に、指導案の実例を見て指導案の要点や組み立て、レイアウトを学ぶとともに、充実した授業のための指導案づくりやその改善に参考となる点についても学ぶ。最終的には、教材研究を重ね指導案づくりに取り組み、模擬授業を行う。指導案づくりや模擬授業を行うことで、教育実習の授業実習の土台を構築し、授業実習への足がかりとすることを本授業の目的とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	国語科の理解	国語科の目標や構成、内容の取り扱いを理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導案づくりに関する知識	指導案づくりの過程を通して授業実習につながる力を身に付けることができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		教材研究を行い、指導案を作成することができる。
2．DP8. 意思疎通		指導案を踏まえて、模擬授業を行うことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の基準	割合
模擬授業	: 指定の形式に沿って独自の授業内容を提示できているかという点から、各回25点で評価し、合計50点とする。	50%
レポート	: 模擬授業の発表での他者の意見を踏まえて、独自の視点で書かれているかという観点から評価する。	50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

教育実習を考える会『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』（蒼丘書林、2012年）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

### 授業計画

第1回	国語科の目標と内容	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学習指導要領、国語科の目標、国語科の内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
	学習指導案づくりと、それにもとづく授業実践の基底をなす、国語科の目標や構成、内容の取り扱いを学習指導要領に即して学ぶ。		4時間



第2回	<b>国語科学習指導案作成の前提（１）教材研究</b> 国語科指導案作成の前提である教材研究について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「読むこと」の指導要領、「書くこと」の指導要領	4時間
第3回	<b>国語科学習指導案作成の前提（２）国語科の授業</b> 学習指導要領の記述を踏まえ、国語科各科目について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：古典の授業、段落と構成	4時間
第4回	<b>学習指導案作成研究（１）単元目標</b> 「単元目標」の項目の書き方について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：単元目標	4時間
第5回	<b>学習指導案作成研究（２）単元設定の理由</b> 「教材観」「生徒観」「指導観」の項目の書き方について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：教材観、教材の系統観、生徒観、指導観	4時間
第6回	<b>学習指導案作成研究（３）本時の目標、本時の展開</b> 「本時の目標」「本時の展開」の書き方について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：本時の目標、本時の指導過程、本時の評価	4時間
第7回	<b>学習指導案の研究</b> 指導案の実例を見て指導案の組み立てやレイアウトを学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：組み立て、レイアウト	4時間
第8回	<b>教材研究の仕方</b> 第2回の内容を確認し、中学校の教科書の中から模擬授業で扱う教材を選び、教材研究を行う。	自分で選んだ教材について教材研究に取り組む。	4時間
第9回	<b>指導案づくり</b> 教材研究を踏まえ、指導案づくりの作業を行う。	指導案づくりに取り組む。	4時間
第10回	<b>模擬授業（１回目）—教材開発に視点をあてて—</b> 自分の行いたい授業の教材を探し、指導案を作成した上で模擬授業を行う。他の学生の行う模擬授業について理解を深める。	他の学生の模擬授業について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第11回	<b>模擬授業（２回目）—板書に視点をあてて—</b> 前回に引き続き、模擬授業を行う。他の学生の行う模擬授業の仕方、板書について理解を深める。	他の学生の模擬授業の仕方、板書について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第12回	<b>教材研究および指導案づくり</b> 新たな教材を選び、教材研究を行い、指導案を作成する。	教材研究、指導案づくりに取り組む。	4時間
第13回	<b>模擬授業（１回目）—教材開発の工夫—</b> 新たな教材について教材研究を行った上で指導案を作成し、その指導案をもとに模擬授業を行う。他の学生の行う模擬授業の教材開発について理解を深める。	他の学生の模擬授業について、前回の模擬授業と比較して改善された点をピックアップする。	4時間
第14回	<b>模擬授業（２回目）—授業観察を通して—</b> 前回に引き続き、模擬授業を行う。他の学生の行う模擬授業の仕方について理解を深める。	発表者以外の人の意見を聞き、その意見をプリントにまとめる。	4時間
第15回	<b>模擬授業の反省と「国語科教育法」のまとめ</b> 模擬授業の反省を通して、指導案に必要な点をもう一度確認する。	最終指導案を完成させる。	4時間

授業科目名	<b>家庭科教育法</b>				
担当教員名	松岡依里子・大本久美子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義で家庭科教育におけるキーワードを学び、学習指導案を作成し、発表し、履修者相互に意見交換を行い、授業方法について再考します。具体的には、単元ごとに学習指導案を作成するための教材研				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

中学技術・家庭科（家庭分野）の意義・目標・内容など具体的な指導について学び、指導の基本を身につけることを目的とします。具体的には、学習指導要領を知り、家庭科の教科書をもとに、現場ではどのような授業がなされているのか、事例をもとに学びます。領域ごとに学習指導案を作成し、模擬授業を行い、改善点を見つけ、授業のスキルを身につけます。さらに、教育実習において、実践的な授業力を発揮できるように、教材研究も行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	衣食住、生活経営などの各単元の理解	実習や実技例から家庭科の内容を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	家庭科の教材作りおよび学習指導案の作成、模擬授業	単元内容について、教材化し、学習指導案を書ける。また、それに基づいて、模擬授業ができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		家庭科の単元について年間計画をたてることのできる。
2．DP6. 行動・実践		教材研究、学習指導案、模擬授業を通して、他者評価から、再構成できる力を養う。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

課題レポート

#### 評価の基準

： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価します。

30%

授業内課題

： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価します。

50%

最終レポート

： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価します。

20%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 中学校技術・家庭科教科書（家庭分野）	・ 開隆堂	・ 2017年
大竹美登利編	・ 家庭科教育 教科教育学シリーズ	・ 一藝社	・ 2014年

### 参考文献等

- ・「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野） 教育図書
- ・「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野） 東京書籍
- ・大竹美登利監修「安心して生きる 学ぶ 生活する」開隆堂
- ・望月一枝 倉持清美 妹尾理子編著「生きる力をつける学習—未来をひらく家庭科—」教育実務センター
- ・日本家庭科教育学会編「生活をつくる家庭科（1巻～3巻）」ドメス出版
- ・柴田義松監修 大竹美登利 赤塚朋子 鶴田敦子編著「家庭科の本質がわかる授業1～3 日本標準
- ・大塚 まり子 家庭科概論 ミネルヴァ書房
- ・中間美砂子 多々納道子編著 中学校・高等学校家庭科指導法 建帛社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
 場所： 授業教室  
 備考・注意事項： 生活デザイン専用メール及び授業前後で対応する。

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション — 家庭科教育とは — (大本)</b> 家庭科教育全般についての説明を聞き、理解する。また授業の方針や学習方法、課題への取り組み方を学ぶ。	家庭科教科書を読んでくる。 4時間
第2回	<b>家庭科教育の目標 (大本)</b> 学習指導要領が示す家庭科の目標を理解し、目標達成に向けての具体的な内容を整理する。	学習指導要領のポイントについてまとめてくる。 4時間
第3回	<b>家族・家庭と子どもの成長 (大本)</b> 「生活の課題と実践」に関する事項及び生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てるための方法や授業内容を学ぶ。	家族について、指定した参考書を読んでおく。 4時間
第4回	<b>食生活と自立 (大本)</b> 小学校家庭科で学習した「B 日常の食事と調理の基礎」との関連を図り、中学生の食生活や栄養についての指導事項を整理する。さらに学習した知識や技能を生かして、主体的な学習活動を展開するにはどのようにすればよいかを討議する。	持続可能な食生活についてレポートを書く。 4時間
第5回	<b>衣生活・住生活と自立 (松岡)</b> 家庭科の学習を通して「衣服と社会生活との関わりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫ができる」という社会性をどのように指導するかについて考えをまとめる。また、「快適な住まい方の工夫」について考え、安全性や環境面をも考慮した住まいの在り方についてまとめる。	糸か布になるサンプルを作成する。 4時間
第6回	<b>身近な消費生活と環境 (大本)</b> 消費者の基本的な権利と責任について学び、家庭生活と消費の関係、環境に配慮した家庭生活について調べ、発表する。	消費者庁のホームページから、消費者問題についてレポートを書く。 4時間
第7回	<b>家庭科学習指導計画 (大本)</b> 指導計画作成に当たっての配慮事項についてまとめ、小学校家庭科との関連について系統的・発展的に指導することの大切さを知る。	1学期の指導計画を作成する。 4時間
第8回	<b>食育と家庭科 (大本)</b> 食育推進に関する家庭科教育の果たす役割を知り、理解する。特に中学生の発達段階における食育の重要性についてまとめる。また食育基本法、食糧自給率、地産地消等、食に関する基本的事項を学ぶ。	小中高で学んだ食育経験について、レポートを書く。 4時間
第9回	<b>ICT教育と家庭科</b> インターネットを使った学習で子どもの興味・関心を高め、意欲を引き出す効果について知る。さらに日常生活でのパソコンの活用と危険性について調べ、どのように指導するかについて討議する。	ICTをどのように活用できるか、教材案を書いておく。 4時間
第10回	<b>言語活動と家庭科</b> 知的活動の基盤である言語の役割を理解し、実習等の結果を整理し言語を使って考察する活動を取り入れた学習を工夫する。家庭科に関わる用語を整理し、語彙は実感を伴って理解することが重要であることを知る。	用語についてのノートを作成する。 4時間
第11回	<b>家庭科教材研究の方法 (松岡)</b> 「わたしの成長と家族や周囲の人々」を取り上げ、〈目標〉〈学習の流れ〉〈指導のポイントや留意点〉等、教材研究の仕方を学ぶ。中学生が「子どもの成長」を学ぶ意義を理解し、授業展開に生かす。	教材研究のポイントを中心に、まとめておく。 4時間
第12回	<b>学習指導案の作成</b> 教科書を参考にして、自分が指導したい題材を選び、学習指導案を作成する。	学習指導案を單元ごとに書いておく。 4時間
第13回	<b>模擬授業の展開</b> 作成した指導案をもとにして、模擬授業を行い、授業観察後、相互評価をする。また改善点等を自分の授業に生かす。	模擬授業を行い、自己、他者評価の結果から、新たな授業案を作成する。 4時間
第14回	<b>模擬授業の改善</b> 前回の模擬授業で行った相互評価を生かし、改善した授業を行う。特に発問の仕方や掲示物、ワークシート等についても工夫をする。	改善点とその検証について、レポートを書く。 4時間
第15回	<b>まとめ—家庭科教師の専門性—</b> 実践を通して学んだ中から、課題を明確にし研鑽の意欲を高める。さらに講義全体のまとめをする。	家庭科の専門性とは何か、最終レポートを書く。 4時間

授業科目名	<b>道徳教育の指導法</b>				
担当教員名	中井 豊				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	一方向的な講義に終わるのではなく、学生同士や学生と教員との議論も取り入れ、能動的創造的学修を追求します。また、子どもにとって魅力ある授業となるためにどのようなことに留意すべきか、授業づくりもグループ				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

「道徳教育のあり方・進め方の理論及び方法」を授業テーマとする。現代の子どもにとって、道徳教育はいかにあるべきか。また、道徳の授業が学習者の心に響く感動的で省察的で、よりよく生きようとする力になるためにはどうあるべきか。これらについて教育現場で行われている事例も適宜紹介しながら考究していく。そして、道徳の授業実践のための基礎基本についての理解を深め、実践的な指導の方法論について修得する。さらに、すべてを通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を豊かに育む道徳教育の実践的力量を養う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	道徳教育のあり方・進め方	道徳教育のあり方・進め方の理論及び方法について理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	道徳教育の実践的力量	道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を豊かに育む。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		教育に関する他人の意図や主張を丁寧に正確に把握することができる。
2．DP8. 意思疎通		他人の意見を踏まえて教育に関する自分の意見を発表することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回のまとめレポート	50%	： 学習内容の妥当性と論理的構成について、10段階で評価します。
模擬授業	30%	： 学習指導案の出来栄や模擬授業評価シートをもとに、10段階で評価します。
授業への参加度	20%	： 授業への参加度を主体的・意欲的・創造的かどうかで毎回3段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

『とっておきの道徳授業』（中学校編12冊N0.1～N0.12），桃崎剛寿 編著，日本標準

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：「まとめノート」に記入してください。

### 授業計画

第1回

**オリエンテーション**

**授業の進め方などの説明**

**グループ**

本授業の進め方や成績評価の仕方について理解する。また、模擬授業を行うためのグループを決める。

自己の教育体験を振り返り、道徳教育のあり方について考える。

授業外学修課題にかかると自らの時間

4時間

第2回	<b>現代社会における道徳教育のあり方 自己の教育体験（発表）</b>  自己の教育体験を発表し、現代社会における道徳教育のあり方を考え、まとめる。	学習指導要領の変遷、昭和22年、昭和26年、昭和33年、昭和44年、昭和52年、平成元年、平成10年についてまとめる。	4時間
第3回	<b>学習指導要領の変遷と道徳教育</b>  学習指導要領の変遷について学び、道徳教育について考える。	子どもが意欲的に取り組むための授業づくりについて何が必要か考える。	4時間
第4回	<b>道徳教育と授業づくり（授業のねらい）</b>  授業のねらいを鮮明に持つことと指導技術について学ぶ。	高め合う学習集団・高めたい人間性について考える。	4時間
第5回	<b>道徳教育と授業づくり（高め合う学習集団）</b>  高め合う学習集団を育てることと、教員の高めたい人間性について学ぶ。	「主として自分自身に関すること」の教材について考える。	4時間
第6回	<b>「主として自分自身に関すること」と授業づくり</b>  「主として自分自身に関すること」の教材と授業の進め方について学ぶ。	「主として他の人とのかかわりに関すること」の教材について考える。	4時間
第7回	<b>「主として他の人とのかかわりに関すること」と授業づくり</b>  「主として他の人とのかかわりに関すること」の教材と授業の進め方について学ぶ。	「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の教材について考える。	4時間
第8回	<b>「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」と授業づくり</b>  「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の教材と授業の進め方について学ぶ。	「主として集団や社会のかかわりに関すること」の教材について考える。	4時間
第9回	<b>「主として集団や社会のかかわりに関すること」と授業づくり</b>  「主として集団や社会のかかわりに関すること」の教材と授業の進め方について学ぶ。	模擬授業の教材について考える。	4時間
第10回	<b>道徳の授業実践（1） 道徳の模擬授業の準備</b> 各グループで道徳の模擬授業の準備をする。	模擬授業の学習指導案について考える。	4時間
第11回	<b>道徳の授業実践（2） 道徳の模擬授業の展開</b> 各グループで模擬授業の準備・練習をする。	模擬授業の教材・教具・資料・板書計画等について考える。	4時間
第12回	<b>道徳の授業実践（3） 道徳の模擬授業の展開と評価</b>  模擬授業を行い、評価シートをもとにその授業について話し合う。	模擬授業の教材・教具・資料・板書計画等について考える。	4時間
第13回	<b>道徳の授業実践（4） 道徳の模擬授業の展開と評価</b>  模擬授業を行い、評価シートをもとにその授業について話し合う。	これからの道徳教育のあり方について考える。	4時間
第14回	<b>道徳と市民性教育 これからの道徳教育のあり方</b>  これまでの学修内容をふまえ、これからの道徳教育のあり方について考える。	自分の道徳についての教育観や授業観の変容について考える。	4時間
第15回	<b>まとめ 道徳教育観 ・ 道徳の授業観についてのまとめ</b> 本授業に参加して、自分の道徳についての教育観や授業観がどのように変化したかを考える。	学修内容をレポートにまとめる。	4時間

授業科目名	<b>教育方法論</b>				
担当教員名	赤沢真世				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	基本的には講義形式で授業を進めますが、それだけではなく、グループワークなどの能動的学修により、主体的な学びを追求します。これまでの学習者としての自己が体験した教育内容と方法をふり振り返りながら、これか				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

この授業では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とします。具体的には、学習指導、授業づくり、授業分析、教室研究、評価方法などについて取り扱います。そして、マイクロ・ティーチング（具体的に5分から10分の模擬授業）を行い、現場での実践に生かせるような教育方法を実践的に学びます。このように、教育方法・技術に関することがらを理論的・実践的に学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する専門的・基礎的な知識の獲得	教育方法に関わる基礎理論を理解できる。さまざまな教育方法の特色を整理することができる。
汎用的な力		教育方法の視点を重視して、実践的な指導をする基礎的な力を身につける。
1 . DP6. 行動・実践		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験レポート	指導案レポートを作成する。児童・生徒観、教材観、指導観について明確で一貫したもの、そして本時1時間分について、教育方法論で学修した要点について具体化されたものを評価する。
50%	
マイクロ・ティーチング	5分間の指導案（10点）、映像を見てふりかえる「振り返りシート」（10点）とする。
20%	
教育方法に関する基礎テスト	教育方法に関する基礎的な用語のテストを第10回に行う。20点満点とする。
20%	
授業への参加度	授業での発表や、毎回の振り返りシャトルシートへの記入の分量・視点の鋭さでプラス評価する。
10%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・『よくわかる授業論』田中耕治編著、ミネルヴァ書房、2009年
- その他の参考書・参考資料等については、授業中に適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限・お昼休み  
 場所： 研究室（西館4階94）  
 備考・注意事項： その他の時間は応相談。メールでアポイントメントをとること。（メール：akazawa@osaka-seikei.ac.jp）

### 授業計画

： 授業外学修課題にか  
 ： かる目安の時間

第1回	<b>オリエンテーション</b> 教育方法・技術とは何か、授業を成立させる要素について考えます。また、伝えることの難しさについて再認識する。	学修内容について整理する。	4時間
第2回	<b>授業と技術：教師の応答による授業・学級集団としての授業</b> 教授法・学習観の変遷、授業を取りまく側面、教師と子どもの応答関係について学ぶ。	配付資料（授業の3つの側面）を読み、整理する。	4時間
第3回	<b>教師の指導言（1）4つの指導言、指示や説明のポイント</b> 教師の指導言の重要性についておさえたあとに、指導言の4つの種類を知り、とくに指示や説明をするときのポイントを学ぶ。現場の教師のビデオ検討も行う。	教師の指導言を観察してくる。	4時間
第4回	<b>教師の指導言（2）発問の意義と重要性</b> 指導言のうち、とくに授業づくりの核となる「発問」の意義をまなび、発問づくりワークを行う。	発問づくり（課題）の続きを行う。	4時間
第5回	<b>教材・教具論（1）3つの区別</b> 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義をおさえ、区別することの意義について理解する。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具を探す。	4時間
第6回	<b>教材・教具論（2）教材解釈・教材開発</b> 教材解釈・教材開発の違いを知るとともに、これまでの有名な実践をもとに、教材開発のポイントを考える。また、自身の選んだ単元に応じた教材開発を試みる。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具の工夫を行う。	4時間
第7回	<b>指導形態（1）学習グループの形成、学び合い</b> 学習形態について、とりわけ能力別編成、学びの共同体、学び合いの授業などをキーワードに学ぶ。これから求められる学力とも結びつけた指導形態をさぐる。	学修内容の整理を行う。	4時間
第8回	<b>指導形態（2）板書と座席、教師の居方</b> 板書の方法と技術、座席の配置を、学習内容や指導すべき内容に即して、その利点や考慮すべき点を考える。また、教師の立ち位置や姿勢という「居方」についても現役の教師の授業ビデオ検討を行い、ポイントを掴む。	マイクロ・ティーチングで扱う内容について、板書計画を立てる。	4時間
第9回	<b>評価論</b> これまでの評価論の歴史を踏まえて、今求められる評価について学ぶ。	相対評価の問題点についてまとめる。基礎テストの準備。	4時間
第10回	<b>マイクロ・ティーチングオリエンテーション</b> 次週より始まるマイクロ・ティーチングに備えて、オリエンテーションを行います。授業の導入の意義や目的、一つの授業の典型的な展開を学び、これまでの指導言や教材論を踏まえて導入5分間の授業づくりを行う。	基礎テストの復習。マイクロ・ティーチングの構想と練習。	4時間
第11回	<b>マイクロ・ティーチングとふりかえり（1）前半グループ</b> 5分間の授業導入を行う。全員必須の模擬授業となる。	振り返りシートの完成。	4時間
第12回	<b>マイクロ・ティーチングとふりかえり（2）後半グループとふりかえり</b> 前回の発表者のふりかえりを踏まえて、次グループによる5分間の授業導入、全員必須の模擬授業を行う。	振り返りシートの完成。	4時間
第13回	<b>学習指導案の作成（1）めあてから評価の一貫性</b> 学習指導案（1時間分）を作成するために、めあてから評価まで一貫した授業の重要性について改めて意識を向ける。自身の作成して授業案について目標、内容の練り直しを行う。	指導案レポートの作成。	4時間
第14回	<b>学習指導案の作成（2）教材と発問の精練</b> 学習指導案（1時間分）を作成するために、教材や発問重要性について改めて意識を向ける。自身の作成して授業案について教材や発問を一貫して位置づけ、練り直しを行う。	指導案レポートの作成。	4時間
第15回	<b>教育方法論のまとめ</b> ペア・グループでの学習指導案の検討会、これからの教育実践のあり方について考察する。	指導案レポートの吟味、修正。	4時間

授業科目名	<b>生徒指導・進路指導</b>				
担当教員名	土田光子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	授業の初めに行う講義を受け、その内容についてグループワークに取り組み、発表することを基本とします。それを1時間で行う場合も、さらに学びを深め3時間で発表になる場合もあります。				

### 授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実践するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題も含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動及び進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方について考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び進路指導に関する現代的な課題を探索し、実際の教育活動への示唆を得る。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

望ましい生徒・進路指導のあり方に対する知識はもとより、多くの事例に触れ、グループワーク・ロールプレイなどで技能を身につけ実際に実践できる力を見につける。

#### 目標：

子どもの事実寄り添い、確かな知識と技能を駆使して子どもの未来を切り開いていくことの責任を実感し、教員になるべく決意を固める。

#### 汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

自分の役割を誠実に果たすことは言うまでもないが個人で完結できる指導などほとんどないことを知り、学校内ではいかに及ばず、家庭・地域・関係諸機関との連携の方法を知る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求め
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

事例検討は、一人ひとりが書き込んだポストイットカードを、班で模造紙に貼り出しブレインストーミングでうかんだ班の結論を、全体に発表するという形で行う。その各班の発表を聞いた後、今日の学びについて各自振り返りカードに7行以上の文章でまとめて提出する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

毎回記入し提出する振り返りカードについては、全員分写し取った通信を次回の授業で配布し、全員で共有する。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への参加度	20%	： 毎回のグループワークで各自が書いたポストイットカードを採点する。
授業中の課題達成率	30%	： グループ発表の貢献度・発表内容を採点する。
レポート	50%	： 毎回の振り返りカード・中レポート・大レポート、計15回のレポート。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 「生徒指導提要」 文部科学省 教育出版  
「子どもを見る眼」 土田光子 解放出版社  
「私を創ったもの」 土田光子 明治図書

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。



## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 随時電子メールで質問を受け付ける。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>オリエンテーション：生徒指導・進路指導の概要</b></p> <p>生徒指導、進路指導を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。</p>	学修内容を整理する。この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理しておく。
第2回	<p><b>学校現場における生徒指導・進路指導の理論</b></p> <p>学校現場における生徒指導・進路指導がどのような子ども観をもとに何を目標として実践されているかを知る。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。生徒指導・進路指導とは何か、グループワークで論議したことをまとめておく。
第3回	<p><b>生徒指導・進路指導の位置づけと体制</b></p> <p>学校現場における生徒指導・進路指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知る。</p>	学修内容を整理する。学校教育現場で生徒指導・進路指導がどのような体制で取り組まれているか、配布された校務分掌表をもとにまとめておく。
第4回	<p><b>生徒指導と子どもの人権</b></p> <p>子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、小・中時代、自己肯定感が高められた（傷つけられた）指導を受けた体験を振り返る。
第5回	<p><b>生徒指導の理論と手法（1）—自己と向き合う</b></p> <p>問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、自己と向き合う生き方を子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、問題行動に走る生徒への指導の事実を自分の中学校時代の体験から振り返る。
第6回	<p><b>生徒指導の理論と手法（2）—対人関係を見直す</b></p> <p>子どもたちが人間関係づくりに稚拙である実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。人間関係づくりのワークショップで学んだことや論議になったことについてまとめる。
第7回	<p><b>キャリア教育・進路指導の理論と進め方</b></p> <p>キャリア教育を単なる職業体験学習、進路指導を単なる高校選択指導と錯覚することがないように、その本質を人生教育として捉えなおす。</p>	学修内容を整理する。進路指導・キャリア教育の実際について文献にあたる。
第8回	<p><b>学校・家庭・地域社会の連携</b></p> <p>学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。</p>	学修内容を整理する。学校・家庭・地域の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外に探しまとめる。
第9回	<p><b>生徒指導と学級形成の今日的意義</b></p> <p>子どもたちが集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育ていく事実を知り、集団づくりの大切さを実感する。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。同調圧力の蔓延した仲良し学級ではなく、多様性を認め合える関係性の中でようやく安心と協働が生まれる実践を読み意見をまとめる。
第10回	<p><b>学級集団形成の目的と方法</b></p> <p>集団づくりの目的は子どもたちをまとめるためではなく、個を鍛えるためにあることを知り、具体的な手法について探求する。</p>	学修内容を整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、集団づくりについて文献にあたる。
第11回	<p><b>不登校・いじめ問題と生徒指導</b></p> <p>不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、学校の責務を実感する。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。いじめについての加害・被害・傍観者・みかた体験について配布されたプリントに記入し、次回提出する。
第12回	<p><b>体罰・非行問題と生徒指導</b></p> <p>懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、非行問題における真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。</p>	学修内容を整理する。体罰のもたらした悲劇について配布された新聞記事を読み、感想をまとめる。
第13回	<p><b>生徒指導と子どもの自尊感情形成（1）—自尊感情とは何か</b></p> <p>人とは違うことを劣等感にするのではなく、それぞれの個性・多様性を互いに認識し認め合った体験の中で育つ「自尊感情」について考究する。</p>	学修内容を整理する。多様性教育について文献にあたる。
第14回	<p><b>生徒指導と子どもの自尊感情形成（2）—自尊感情はどのように育まれるか</b></p> <p>自尊感情は、単にほめられて育つものではなく、他者と協力して困難に立ち向かい、自分の役割を責任を持って果たしたという達成感の中で育まれる事実について、多くの実践例から学び取る。</p>	学修内容を整理する。配布された若い教員の実践を読み込み、厳しい生活背景を生きる子どもたちが、自分への自信を取り戻す姿について意見をまとめる。

第15回 **まとめ—成果と自己課題**

望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。

学修内容を整理する。15回の授業全体から学んだことをまとめておく。

4時間

授業科目名	<b>教育実習事前事後指導</b>				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	各担当教員による講義およびディスカッションで対話型授業を行います。また、内容により実習先別指導、個別指導します。各回の指導内容については、プリントにまとめて記録し、提出します。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰ・Ⅱに必要な基本的事項と心構えについて講義し、実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われ、また、実り多いものとなるようにします。事後指導では、教育実習のまとめをして、実習日誌の整理、実習校への対応等を含め、自己評価を行うことにより、各自が教育実習体験を有効的に活用できるようにします。教育実習の事例について発表し、他者評価、自己省察を行い、グループディスカッションにより教育実習の効果を高めます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習への参加のための知識と理解	教育実習の意義を知る。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習に必要な技術	学校特性に応じた実践力を身につける。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		教師としての資質を身につけ、実習校で適応できる力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則、欠席は認められません。「教育実践への対応」の到達度で評価する。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート	60%	： ルーブリックに基づき4段階で評価します。
授業内課題	40%	： ルーブリックに基づき4段階で評価します

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・本学作成の教育実習記録
- ・教育実習ガイド

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜3限
場所：	生活デザイン第2研究室
備考・注意事項：	生活デザイン学科専用メール及び授業前後の質問を受け付ける。 グローバルコミュニケーション学科の学生には、担当教員が対応する。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<b>中学校教育実習の意義と目的</b> ・教育実習の意義を学ぶ。 ・大学および教育実習校の指導体制の概要を理解する。 ・実習依頼の手続きと心得を学ぶ。	2時間
第2回	<b>中学校教育実習体験発表</b> ・先輩の中学校教育実習体験から学ぶ。	2時間

第3回	<b>「教職履修カルテ」の説明と記入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教職履修カルテ」の概要について学ぶ。</li> <li>・「教職履修カルテ」の記入可能な箇所について、各自が記入を行う。</li> </ul>	履修カルテから何を学ぶのかについてレポートを書く。	2時間
第4回	<b>教育実習の基本的事項と実習校での諸活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に参加するにあたり、教育実習の基本事項を確認する。</li> <li>・実習校での諸活動を確認し、教育実習に必要な準備について見通しを得る。</li> </ul>	実習校に見合った基本的事項について調べておく。	2時間
第5回	<b>人権教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の現場で重要な人権的配慮について、具体的な事例をもとに学ぶ。</li> <li>・教育実習先でどのような人権的配慮が求められるのかを各自が確認する。</li> </ul>	人権についての課題レポートを作成する。	2時間
第6回	<b>望ましい授業のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい授業をするために必要な知識や技術を学ぶ。</li> <li>・発問、板書、掲示等について、その重要性和ポイントを学ぶ。</li> </ul>	板書の内容、書き方について練習する。	2時間
第7回	<b>学習指導案および教育実習記録の意義と作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の学習指導案の意義を踏まえ、その書き方について基本事項を学ぶ。</li> <li>・各教科ごとに学習指導案の一部を実際に作成してみる。</li> <li>・中学校実習記録の記入について、基本事項を学ぶとともに、配慮すべきことを確認する。</li> </ul>	実習記録の意義について再考する。	2時間
第8回	<b>(事前指導) 実習校の実態をふまえた課題の確認</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の各実習校について、その実態を学ぶ。</li> <li>・各実習校の実態を踏まえて、事前にどのような準備が必要かを考える。</li> </ul>	事前準備事項についてまとめておく。	2時間
第9回	<b>(事後指導) 中学校教育実習の報告・反省</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教育実習について、実習後に各自が自己の実習をふり返り、報告するとともに、反省事項を確認する。</li> <li>・実習記録の内容を確認し、必要に応じて指導を行う。</li> </ul>	教育実習の内容の発表を通して、他者から学んだことをレポートに書く。	2時間
第10回	<b>教育実習の成果と自己評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議・発表を通して、教育実習全般について各自がふり返り、教育実習で得たものは何かを考える。</li> <li>・教育実習を通して明らかとなった、各自の実践的な課題について確認する。</li> </ul>	教育実習について自己省察と課題についてレポートを書く。	2時間

授業科目名	<b>教育実習Ⅰ・Ⅱ</b>				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	・上記に記載のとおり、各実習校の定める実習計画に従って、教育実習に参加します。・教育実習ノートを毎日記入し、実習校の指導者にコメントをもらい、完成させ、提出します。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

大学で学んだ講義や演習、実技を総合的に整理活用し、現場で実践・研究することにより、教育に対する理解を深めます。実習校における全教育活動を通して、学校教育の実際を体験し、生徒理解、教育課程、学習指導の研究、実践勤務のあり方等を学び、望ましい教師像を形成します。

中学校での教育実習は3週間あるいは4週間です。ただし、ある学校で2週間実習し、別の学校で2週間実習するなどの場合もあります。したがって、教育実習期間の前半が教育実習Ⅰ（2単位）、後半が教育実習Ⅱ（2単位）に相当します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

教育知識や技能を実習の場で活用する。

#### 目標：

学校、生徒とかわりながら、教師の資質をはぐくむ。

#### 汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

教師の職業理解およびその実践力を身につける。

### 学外連携学修

有り（連携先：各自の実習校）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として欠席は認められません。成績評価は実習校評価にウエイトを置く。

#### 成績評価の方法・評価の割合

教育実習レポート

#### 評価の基準

： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価します。

100%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

『中学校学習指導要領』平成20年版（文部科学省）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習だけでなく、実習前の準備、実習後の振り返りにも十分に力を入れること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習期間中および実習前後

場所： 生活デザイン第2研究室

備考・注意事項： 事前事後指導にて対応します。

### 授業計画

回数	内容	実習ノートの作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>観察・参加実習</b> ・生徒の実態、教師の支援、授業の流れ等について把握する。 ・生徒と共に活動することにより、生徒理解を図る。 ・学校現場を具体的に観察し、その様子をとらえる。	実習ノートの作成	4時間
第2回	<b>指導実習</b> ・指導を通して指導のあり方を把握し、指導技術を身につける。 ・指導案を作成し、それに沿って実際に研究授業を行う。 ・学級での指導を通して、学級経営のあり方を把握する。 ・学校行事や生徒会活動、部活動等に参加し、その特質とあり方を把握する。  ※それぞれの実習校により、指導実習の内容は異なる。	実習ノートの作成	4時間



授業科目名	<b>教職実践演習（中学校）</b>				
担当教員名	松岡依里子・大槻雅俊				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	・配布資料に基づき、教職に必要なキーワードを概説し、グループディスカッションを行います。・毎回の授業の終わりに授業まとめ、自己省察レポートを提出します。（400字程度）・模擬授業を行い、実				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

中学校の現場に立つ者として、最小限必要な資質・能力、及び教育実践力が身につけているかどうかを自ら確認します。その上で、自己課題を明確にして、その課題を自ら解決します。また、教員になる者としての自己の適性やよさに気づき、それを定着させ、さらにそれを向上させます。

上記の学びを通して、自信と誇りをもって中学校の教員として実践的なスタートが切れるようにします。さらに、他者の実習経験から、実習の課題についてグループディスカッションを行い、学びを定着させます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

教育実習後の教師の資質定着のための知識、技能の確認  
教育実践能力の向上

#### 目標：

知識、技能、職業理解の定着化をはかり、教師としての資質を磨く。  
模擬授業の再構成を行い、他者評価、自己省察から課題発見の力をつける。

#### 汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP6. 行動・実践

実習体験後の自己省察、他者評価による課題発見

実習後学びを再考し、教師として実践していく力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	50%	： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価させます。
課題レポート	50%	： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価させます。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

文部科学省 「中学校学習指導要領、及び同各科等解説書」平成20年  
渋谷真樹他編著 「集団を育てる特別活動」 ミネルヴァ書房

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業前での質問を受け付ける。メールアドレス sed@osaka-seikei.ac.jp  
に、件名「教科名、学籍番号、氏名」を記載の上、送付のこと。

### 授業計画

第1回

#### オリエンテーション—教育実習の振り返り—（松岡）

教職実践演習の意義を理解し、演習の進め方と評価の方法の説明する。

授業内容についてまとめること。キーワード；授業評価

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

4時間

第2回	<b>教職の意義と教員の責務（大綱）</b> 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	授業内容についてまとめること。キーワード 教師資質	4時間
第3回	<b>生徒指導①児童生徒の理解（大綱）</b> 教育実習体験を基に、児童生徒の理解とかかわり方について省察する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第4回	<b>生徒指導②教育者問題（大綱）</b> 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。 (いじめ・不登校など)	振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	<b>生徒指導③個性の尊重（大綱）</b> 児童生徒の多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	課題レポートを作成する。	4時間
第6回	<b>生徒指導④学級づくり（大綱）</b> 望ましい学級づくり、その意義と方法を学ぶ。	学級活動について、調べておく。	4時間
第7回	<b>学習指導①授業とは（松岡）</b> 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	教育実習ノートを再考し、課題レポートを書く。	4時間
第8回	<b>学習指導②主体的な授業（松岡）</b> 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	中学校のアクティブラーニングについて調べ、レポートを作成する。	4時間
第9回	<b>学習指導③発問と板書（松岡）</b> 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	模擬授業を再考、修正し、指導案を書いておく。	4時間
第10回	<b>安全・安心で信頼される学校づくり（大綱）</b> 地域と家庭と学校の連携・協働について学ぶ。	課題レポートを提出する。	4時間
第11回	<b>模擬授業の展開①（松岡）</b> 「学級活動」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	<b>模擬授業の展開②（松岡）</b> 「道徳」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	「人権」についての課題レポートを作成する。	4時間
第13回	<b>コミュニケーション・ツールとしての学級通信（大綱）</b> 学級通信の今目的意味と作成方法の修得	課題レポートを作成する。	4時間
第14回	<b>保護者対応の意味と方法（大綱）</b> 生徒の保護者との適切な対応について、ロールプレイングを通して保護者対応の模擬体験をする。	振り返りシートを作成する。	4時間
第15回	<b>まとめ：めざす教師像確立のための省察と自己課題（松岡）</b> 本演習で学んだ内容を振り返り、教育現場で活躍するための自己の強みや課題を整理する。	「なりたい教師像」について、授業をふまえてレポートを書く。	4時間
第16回			4時間



授業科目名	<b>生徒指導・教育相談</b>				
担当教員名	土田光子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	授業の初めに行う講義を受け、その内容についてグループワークに取り組み、発表することを基本とします。それを1時間で行う場合も、それぞれに時間を取り、3時間を費やす場合もあります。				

開放科目の指示：「可・不可」

### 授業概要

学校教育における生徒指導・教育相談の位置づけと教育機関における体制について理解し、これらの実践に必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題も含めて学びます。また、「いじめ」や「不登校」など具体的な問題行動・教育相談の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方について考察します。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導・教育相談に関する現代的な課題を探索し、実際の教育活動の意義と実践的な取り組み方についての理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

望ましい生徒指導・教育相談のあり方に対する知識はもとより、多くの事例に対するロールプレイで技能を身につけ、教員の専門性について理解を深める。

#### 目標：

生徒指導・教育相談に対する知的理解にとどまらずそれを使いこなせる力を身につけるには、さまざまな事例を分析し指導の方針を立て実行する力が必要なことを理解し、いかに責任の重い職業であるかの認識を深める

#### 汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

一人で完結できる事例はまれであることを知り、教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のとり方を知る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

事例検討は、一人ひとりが書き込んだポストイットカードを、班で模造紙に貼り出しブレインストーミングでうかんだ班の結論を、全体に発表するという形で行う。その各班の発表を聞いた後、今日の学びについて各自振り返りカードに7行以上の文章でまとめて提出する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

振り返りカードについては毎回通信の形で打ち込み、全体で共有する。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業の参加度

#### 評価の基準

： 毎回のグループワークで各自が書いたポストイットカードを採点する。

20%

授業中の課題達成率

： グループ発表の貢献度・発表内容を採点する。

30%

レポート

： 毎回の振り返りカード・中レポート・大レポート、計15回のレポート。

50%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「生徒指導提要」文部科学省 教育出版  
「子どもを見る眼」土田光子 解放出版社  
「私を創ったもの」土田光子 明治図書

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：  
 場所：  
 備考・注意事項： メールによる応答 m.tsuchida.069157@hotmail.co.jp

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション：生徒指導・教育相談の概要</b>  生徒指導、教育相談を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。	学修内容について整理する。この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理しておく。
第2回	<b>学校現場における生徒指導の理論</b>  学校現場における生徒指導がどのような子ども観をもとに何を目標として実践されているかを知る。グループワークを行う。	学修内容について整理する。生徒指導とは何か、グループワークで論議したことをまとめておく。
第3回	<b>生徒指導の位置づけと体制</b>  学校現場における生徒指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知る。	学修内容について整理する。学校教育現場で生徒指導がどのような体制で取り組まれているのか、配布された校務分掌表を元にまとめておく。
第4回	<b>生徒指導と子どもの人権</b>  子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、小・中時代、自己肯定感を高められた（傷つけられた）指導を受けた体験を振り返る。
第5回	<b>生徒指導の理論と手法（1）—自己と向き合う</b>  問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、自己と向き合う生き方を子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、問題行動に走る生徒への指導指導の事実を自分の中学校時代の体験から振り返る。
第6回	<b>生徒指導の理論と手法（2）—対人関係を見直す</b>  子どもたちが人間関係づくりに稚拙である実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。人間関係づくりのワークショップで学んだことや論議になったことについてまとめておく。
第7回	<b>生徒指導と学級形成の今日的意義</b>  子どもたちが集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育っていく事実を知り、集団づくりの大切さとその手法について探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、集団づくりについて文献にあたる。
第8回	<b>学校・家庭・地域社会の連携</b>  学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。	学修内容について整理する。学校・家庭・地域の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外で見つける。
第9回	<b>不登校・いじめ問題と生徒指導</b>  不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、学校の責務を実感する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。加害・被害・傍観者・みかたの4種類の体験について配布されたプリントに記入し次回提出する。
第10回	<b>体罰・非行問題と生徒指導</b>  懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、非行問題における真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。体罰のもたらした悲劇について配布された新聞記事を読み、感想をまとめる。
第11回	<b>教育相談の位置づけと体制</b>  学校教育の中で、なにゆえ教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制について考究する。	学修内容について整理する。教育相談について、文献にあたる。
第12回	<b>学校教育相談と心理療法・カウンセリングの理論</b>  学校教育相談において必要な、心理療法・カウンセリングについてその理論を考究する。	学修内容について整理する。心理療法・カウンセリングの実際について、文献にあたる。
第13回	<b>発達障害の理解・援助と学校教育相談</b>  発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、学校教育相談の果たす役割について考究する。	学修内容について整理する。発達障害について文献にあたる。
第14回	<b>学校現場における教育相談活動の実践</b>  教育相談の事例をもとに、教育相談の望ましいあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理し、レポートに備える。目指す教育相談のあり方について、グループワークでの論点を中心にまとめる。
第15回	<b>実践事例研究とまとめ</b>  望ましい生徒指導及び教育相談のあり方について考究する。	学修内容をレポートする。15回の授業全体から学んだことをまとめておく。

授業科目名	<b>栄養教育実習事前事後指導</b>				
担当教員名	谷口 信子				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	授業は、講義及び演習形式で行います。また、2年間を通して10回の授業であるので、実施日は不定期です。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は、2年間に亘って栄養教諭としての教育実習の目的を理解し、実習のねらいにあわせて学校教育についての理解を深めることを目指す。教諭二種免許状取得のためのオリエンテーションから教育実習後の報告会まで、教育実習に必要な事項の事前確認と振り返りを中心に構成されている。1回生では、主に教職免許を取る心構えと2回生の実習報告、2回生では、実習前の授業計画と実習後の報告を中心に8回、2年間で10回の授業を行う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習の意義、手続きについて理解する。	教育者としての実習について理解し、児童とのかかわりについて理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の教育実習に必要な知識と技術について理解する。	栄養教諭としての専門的知識・技能を修得し、研究授業に対する準備ができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教育実習に対して、自分に不足している知識及び技能について気づくことができる。
2．DP6. 行動・実践		教育実習に対して積極的に考え、行動できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

#### 評価の基準

： 毎回テーマに沿った課題を作成し、科目独自のルーブリックを用いて評価する。10点×7回の課題を提出する。

70%

振り返りシート

： 毎回の授業について振り返り、課題発見や気づきを記述し、独自のルーブリックを用いて評価する。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

食に関する指導の手引～第一次改訂版～（文部科学省）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本授業は、栄養教育実習に行くための事前事後指導であるので、受講状況や態度によっては教育実習に参加できない可能性がある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 金曜2限  
 場所： 栄養第3研究室  
 備考・注意事項： それ以外の時間でも研究室に在室の場合はいつでも質問に応じます。

### 授業計画

第1回	栄養教育実習の意義、目的及び概要・教育実習依頼の手続き	どうして栄養教諭資格取得を目指すのかレポートを書く。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	栄養教諭についての学科オリエンテーションを行う。教務課の担当者より母校への教育実習の依頼手続きについて説明する。		3時間

第2回	<b>教育実習体験発表会</b>  2 回生より教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行う。	次年度の教育実習に向けて、自分が5日間の教育実習でどんなことをやりたいかをレポートする。	3時間
第3回	<b>履修カルテの説明と記入</b>  履修カルテの概要について学び、記入可能な箇所について、各自が記入する。これによって、各自の実習前の履修状況や準備状況を確認できる。	履修カルテを記入後、教職での学びを振り返る。	3時間
第4回	<b>教育実習の基本的事項と実習校での諸活動</b> 教育実習で理解する学校での教育活動について学ぶ。	各自の実習先についてレポートする。	3時間
第5回	<b>人権教育</b> 教育実習に向けて、本分野専門の教員より講義を受けます。教育実習先でどのような人権的配慮を求められるのかを各自が確認する。	本時の内容をレポートする。	3時間
第6回	<b>教育実習のための指導技術の習得</b> 現役の栄養教諭から教育実習での研究授業の進め方について教授していただく。	教育実習の目標を考える。	3時間
第7回	<b>学習指導計画と教育実習記録の意義と作成</b>  学習指導計画をグループワークで作成する。 教育実習ノートの記入についてオリエンテーションを行なう。	教育実習に向けて、目標設定を行い、文章化する。	3時間
第8回	<b>実習直前指導</b>  教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の確認を行う。	教育実習に向けて準備すべきことについて考える。	3時間
第9回	<b>教育実習内容の報告</b>  教育実習後、実習内容について発表する。	他の学生の実習報告も聞き、自分の課題についてレポートする。	1時間
第10回	<b>教育実習の成果・自己評価</b>  実習の成果を発表後、1 回生も交えてグループワークにて振り返りを行う。	栄養教諭として、教育者としての自己評価をレポートに記入して提出	1時間

授業科目名	<b>栄養教育実習</b>				
担当教員名	谷口信子				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	5日間の小中学校における栄養教諭としての教育実習で、実習内容は、実施校によって異なる。共通していることは、実習中に研究授業を行うので、事前に入念な準備が必要である。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

栄養教諭は、直接的に教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことにある。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての実習を行なう。5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証することを目指す。したがって、栄養教諭としてだけでなく、小学校及び中学校の教諭として、児童や生徒への対応、また学校組織の一員としての役割などを実践から学ぶ科目である。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教諭として教育現場に入り、その立場や役割を理解する。	教育者として児童・生徒に関わり、一人一人の個性を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導を行う。	栄養教諭として、給食時間や授業を通して、食に関する指導を実践できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を発見することができる。
2．DP6. 行動・実践		研究授業に向けて、積極的に行動し、実践できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実習の記録および報告書

50%

実習先の評価

50%

#### 評価の基準

： 教育実習の記録について、正確性、明確性、論理性、簡潔性、読みやすさ等の観点から5段階で評価する。

： 実習先の指導教員によって、実習態度、マナー、教諭としての資質、実習記録等の観点から5段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「食に関する指導の手引き-第一次改訂版-」/文部科学省

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。実習だけでなく、実習前の準備や実習後の振り返りにも十分に力を入れること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜2限

場所： 栄養第3研究室

### 授業計画

第1回

#### 小学校での教育実習（5日間）

栄養教諭二種免許取得のための教育実習を行います。実習期間は5日間ですが、実習校の先生との打ち合わせを事前におさしましょう。

「私にとっての教育実習の意義」について考える。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

授業科目名	<b>教職実践演習（栄養教諭）</b>			
担当教員名	谷口信子・安藤弘行・大槻雅俊			
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	栄養教諭免許取得希望者を対象に、学校の現場に応じた実践的な演習を中心として行ないます。小学校教諭経験者や現役の栄養教諭を含む複数の教員によるオムニバス形式にて行い、模擬授業や授業の見学、食育活			

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身につけているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことを目指す。ここまでの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけされており、栄養教諭免許取得者として自覚することを目的とする。グループワークや授業の見学を通して、自分に不足している力を発見かつ克服し、栄養教諭資格取得者に相応しい知識と技術を修得したことを確認する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養教諭としての知識技能の修得を確認する。	これまでの学びを振り返り、栄養教諭に必要な知識技能を修得したことを確認できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職の意義や教員の役割、子どもや地域とのかわりについて学び、理解する。	教育者として、食に関する授業やイベントを企画・立案できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		履修カルテから、不足の力や自己の課題に気づくことができ、克服できる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		教諭として社会性や対人関係能力を身につけることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	40%	： 教員が授業内で指示したテーマに沿ったレポートや製作物を40点満点で評価する。
振り返りシート	30%	： 科目独自のルーブリックによって、毎回授業の振り返りシートを30点満点で評価する。
受講状況	30%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等）や受講態度（マナー、私語、姿勢など）を学科独自のルーブリックによって総合的に30点満点で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。食育シンポジウム及び学外での研究授業の際は、スーツ着用とする。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜2限  
 場所： 栄養第3研究室  
 備考・注意事項： メールにて受け付けます。  
 taniguchi-n@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	<b>オリエンテーション（自己の課題を確認し、授業概要を理解する。）</b> 演習の進め方と評価方法について理解する。 履修カルテに必要事項を記入し、栄養教諭取得に向けて自らの課題について考える。	本授業における各自のテーマを書く。	4時間
第2回	<b>教職の意義と教員の責務</b> 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第3回	<b>生徒指導①児童生徒の理解</b> 教育実習体験を基に、子どもへの理解とかかわり方について省察する。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第4回	<b>生徒指導②教育者問題</b> 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応についてまなぶ。 (いじめ・不登校など)	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第5回	<b>生徒指導③個性の尊重</b> 子どもの多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第6回	<b>生徒指導④学級づくり</b> 望ましい学級づくり その意義と方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第7回	<b>学習指導①授業とは</b> 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第8回	<b>学習指導②主体的な授業</b> 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第9回	<b>学習指導③発問と板書</b> 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第10回	<b>教材作成</b> 栄養教諭として効果的な教材作りを学び、実際に製作する。	製作物を完成する。	4時間
第11回	<b>食に関する掲示物の作成</b> 栄養教諭が給食室等の掲示板にどのような掲示物を貼るのが効果的かを確認し、製作する。	製作物を完成する。	4時間
第12回	<b>児童対応演習（食に関する個別対応など）</b> 栄養教諭として、食物アレルギー児への対応について学び、ロールプレイによって理解を深める。	復習と次回の学習に向けて予習。	4時間
第13回	<b>栄養教育の実際（研究授業）</b> 実際の栄養教諭の授業を見学し、授業運営について確認する。	授業見学のレポートを作成する。	4時間
第14回	<b>地域と家庭と学校の連携・協働①（企画・立案）</b> 地域の学童保育所と連携し、児童主体のクッキングを企画、立案する。	「クッキング」の運営マニュアルの作成	4時間
第15回	<b>地域と家庭と学校の連携・協働②（実施）</b> 地域の学童保育所の児童へのクッキングを実施して、振り返って検討する。	実施後の振り返りシート作成	4時間

授業科目名	<b>教育課程論</b>				
担当教員名	赤沢真世・園田雅春				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式で進めるが、学生の意見交流等、グループやペアで活動することもあるので積極的に参加されたい。				

開放科目の指示：「可・不可」

### 授業概要

学校の教育活動は教育課程に基づいて行われており、学校教育関係者にとって教育課程編成の概念や原理、その意義について理解することは重要です。本講義では（１）教育課程編成の概念、原理、意義、領域について、（２）日本における教育課程の変遷、（３）教育課程の様々な問題について学び、教育課程のあり方について考察します。また、特別活動の目標・内容を理解し、教育現場における現状と課題を概観しながら、子どもにとって意味ある特別活動のあり方と指導法を探ります。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	戦後日本の教育課程の変遷、および求められるこれからの教育課程と特別活動について	戦後日本の教育課程の変遷についての基礎的知識を持つとともに、求められるこれからの教育課程（特別活動含む）について現在の議論を踏まえて説明できる。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	日本の教育課程や特別活動の特質と意義について理解を深める。	これから求められる教育課程や特別活動の指導について自分の考えが表明できる。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		現在の教育課程や求められる特別活動において課題を発見することができる。
2．DP8.意思疎通		他者と豊かなコミュニケーションを図ることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

定期試験レポート

#### 評価の基準

：教育課程の基礎的な知識を問うためのレポート。（学校紹介パンフレットづくり）。教育課程の基礎的な専門用語の説明、および実践的な視点から一貫して作成できているものを評価する。

50%

授業内課題

：授業において提示する小レポートで評価する。（赤沢担当部分15点、園田担当部分15点とする。）

30%

授業への参加度

：授業中の質疑応答、発言、毎回のシャトルシートの記述で評価する。

20%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 『新しい時代の教育課程 第3版』田中耕治他、有斐閣、2011年  
『よくわかる教育課程』田中耕治、ミネルヴァ書房、2009年  
『自尊感情が育つ元気教室』園田雅春、解放出版社、2016年  
『自尊感情を高める学級づくりと授業』園田雅春、雲母書房、2013年

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 赤沢：月曜2限、 園田：月曜4限  
場所： 赤沢、園田：各研究室（西館4階94、97）  
備考・注意事項： なお、赤沢には、事前にメールでアポイントメントを取ること。  
赤沢メールアドレス： akazawa@osaka-seikei.ac.jp  
園田には、事前に下記のメールでアポイントメントを取ること。  
園田メールアドレス： sonoda@osaka-seikei.ac.jp



授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション（授業の進め方と授業内容のアウトライン）</b> （担当：赤沢真世） 教育課程論を始めるにあたっての諸注意・連絡、成績評価の確認を行う。	現代に求められる学校教育について自身の意見を整理しておく	4時間
第2回	<b>教育課程・カリキュラムとは何か・学習指導要領の変遷</b> （担当：赤沢真世） 教育課程・カリキュラムとは何か、何のためにあるのか、何がポイントなのかを考察する。	配布資料を読み、感想をまとめる。	4時間
第3回	<b>教育課程の変遷・学習指導要領</b> （担当：赤沢真世） ・学習指導要領の位置づけと変遷（戦後）の概観をし、議論を整理する。	配付資料の読み込み、感想をまとめる。	4時間
第4回	<b>教育課程と内容選択・編成原理—経験主義</b> （担当：赤沢真世） ・経験主義を軸として教育課程における内容選択の基準と教育編成原理を学ぶ。	配付資料を読み、感想をまとめる。	4時間
第5回	<b>教育課程と内容選択・編成の原理—系統主義</b> （担当：赤沢真世） ・系統主義を軸として教育課程における内容選択の基準と教育編成原理を学ぶ。	教科書比較のミニレポートを完成させる。	4時間
第6回	<b>教育課程と子どもの発達</b> （担当：赤沢真世） 発達理論（子どものつまずきや素朴概念）と学習理論から教育課程を理解する。	子どもの素朴概念を日常生活で探してくる。	4時間
第7回	<b>教育課程（カリキュラム）の作成</b> （担当：赤沢真世） 年間のカリキュラム・単元構想を作成する。	一つの教科・単元を取り上げ、学修したことを踏まえて整理する。	4時間
第8回	<b>教育課程を見直す</b> （担当：赤沢真世） ・評価の考え方、その変遷を学ぶ。	学修内容の復習をし、相対評価の問題点を整理する。	4時間
第9回	<b>今日的課題と教育課程—思考力・判断力・表現力</b> （担当：赤沢真世） ・現代の子どもたちに求められる力（思考力・判断力・表現力）の学力の中身について深め、そうした力をどのような授業を通して高め、どのように評価するのかについて学ぶ。	【ミニレポート】全国学力・学習状況調査の問題例をとき、求められる学力を論じるミニレポートを完成させる。	4時間
第10回	<b>ヒドゥン・カリキュラム</b> （担当：赤沢真世） ・顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムの違いと後者のはたらきについて理解する。	ヒドゥン・カリキュラムについて事例を探してくる。	4時間
第11回	<b>教育課程と教育環境</b> （担当：赤沢真世） 学校建築、教室空間等の教育環境、また教師と子どものそれぞれの関係性から教育課程について考える。	座席や教室空間の事例を探し、学修した視点から整理する。	4時間
第12回	<b>学習指導要領と特別活動</b> （担当：園田雅春） 特別活動の目標と内容について、教育体験を振り返りながら学び合う。	特別活動に関する自己の教育体験を振り返って、ノートに整理しておくこと。	4時間
第13回	<b>「いじめ問題」克服と特別活動の指導法</b> （担当：園田雅春） 「いじめ問題」克服を視野に入れて、特別活動の今日的な意味と課題について学ぶ。	「いじめ問題」について、これの克服のための具体的な要件を整理しておくこと。	4時間
第14回	<b>生徒理解と自尊感情形成のために</b> （担当：園田雅春） 特別活動を通じてどのような資質や能力を育むのか、実践的に学ぶ。	自尊感情の形成について自己の体験を振り返りながら整理しておくこと。	4時間
第15回	<b>まとめ</b> （担当：赤沢真世） これまでの授業をふりかえり、「教育課程論」「特別活動」の視点から教育現場における様々な問題について考察する。	最終課題に備えて学修内容をまとめ、レポートを作成する。	4時間